

★留学生便り(32)★

私の準備学部

宮崎 いづも

2014年の3月からモスクワに住んで、もうすぐ1年が経とうとしています。3月から6月の間はИРЯиК(旧ЦМО)のロシア語研修コースで文法を学びました。9月からはモスクワ大および他のロシアの大学への入学を目指す外国人が集まる準備学部でロシア語、専門用語、歴史、文学を学んでいます。

モスクワ大学の準備学部の文系学生は、ИРЯиКの5階で学んでいます。ちなみに、3階と4階はロシア語研修コースの学生が学んでおり、理系の学生は学校から5分ほど歩いたところにある建物で勉強しています。準備学部の出身国の比率は中国人7割、韓国人2割、その他の外国人1割です。一クラスあたり学生は8人ですが、その半数以上が中国人です。

準備学部のクラス編制はロシア語のレベルと志望学部で決まります。例えば私はГруппа4に在籍し、クラスメイトは言語系の学部(通訳学部やИССАなど)への入学を目指しています。基本的にグループの数字の小さいクラスほどロシア語能力の高い学生が集まっているようです。Группа1は例外的に志望学部を問わずロシア語の能力が一番高い学生が在籍しています。文系は15クラス、理系は5クラスほど存在します。

準備学部の学生の共通科目はロシア語と専門用語です。ロシア語の授業でДорога в Россию(日本の大学でも用いられています)という教科書を用いて文法を身につける作業をしています。時たま有名なロシア人作家の作品を読み、討議することがあります。最近読んだ作品はチェーホフの「頸の上のアンナ」でした。専門用語(Язык специальности)では、大学で読む専門的な文献に慣れるための訓練を行っています。抽象的な概念について書かれた文章(例えば、言語の役割について)を読んだり、テーマについて討議するなどしています。

共通科目の他に歴史や文学、社会などの科目を学ばなければなりません。志望学部別に学ぶ科目が決まっています。何故ならば、それが入学試験の科目だからです。例えば、私は言語系のクラスにいるので文学と歴史を学ばなければいけません。法学志望の学生だと歴史と社会です。

ロシア語の専門用語の授業に比べて、歴史と文学の授業はシビアです。その理由は二つあります。まず一つ目は先生が厳格であることです。文学のエレーナ・スタニスラボブナはニコニコしながら毎回10ページ前後の宿題を出します。歴史のイリーナ・ペトロブナの授業は常に緊張感に包まれます。学生が宿題を忘れると「ここは幼稚園じゃないのよ!なんのためにモスクワに来たの!」と叱りつけます。二つ目は教科書の文章が難解であることです。その科目の専門単語が数多く登場し、宿題がなかなか捗りません。

苦勞して読み込んだテキストを片手に聞く授業は、いつも新しい発見があります。文学の授業では、登場人物の性格や社会的立場を分析し、この作品のテーマに基づいて話し合います。今まで文学の授業というものを受けた経験がなかったので、これは新鮮でした。歴史の授業では、最初の30分間で前回の授業内容を確認するための口頭テストを行います。その後は新しい単元のテキストを読みつつ、討議します。先日は祖国戦争の主観的および客観的勝因について授業で話し合いました。

6月には準備学部の最終試験があります。この試験に合格するとロシアの大学への入学資格を得ることができます。残された時間はあと三ヶ月です。悔いの無いように全力で取り組んでいきたいと思います。

